

# 婦人科専門医に聞く

婦人科部長

なかの たかし  
中野 隆



## HPV併用子宮頸がん検診とは？



従来の子宮頸がん検診に HPV(ヒトパピローマウイルス) 検査を合わせて行ういわゆる HPV 併用子宮頸がん検診が、現在、全国の多くの自治体で始められていますのでご存知の方もいらっしゃると思います。

さて、HPV とは何なのでしょう。このウイルスは、現在は子宮頸がんの大部分の原因であることが証明されています。長い間子宮頸がんの原因は明らかではありませんでしたが、1983 年に zur Hausen により子宮頸がん組織から HPV の発癌に關与する特定の型のゲノム(遺伝子情報)が高率に存在することが発見され、知見の積み重ねにより多くの研究者が周知するに至っています。zur Hausen は 2008 年この功績によりノーベル医学生理学賞を受賞されています。原因がはっきりしているがんですので、子宮頸がんの予防や早期発見に HPV を用いることが考えられます。そこで HPV ワクチンによる予防接種が全世界で実施されているわけですが、わが国では 2010 年 13 歳から 16 歳の女子を対象としたワクチン接種が公費負担で受けられるようになり、2013 年 4 月定期接種として制度化されましたが、その後国はワクチン接種後の持続的疼痛などの副反応の報告を受け、同年 6 月定期接種ではありますが積極的勧奨としないことにしたため現在は対象の約 1%にしか実施されていません。

各自治体がワクチン接種の勧奨に動けない状況のなかで、若年の子宮頸がんは増加傾向にあります。子宮がん検診率は現在もわが国では低迷しており、非常に危険な事態であることは事実です。魚津市は、富山ろうさい病院とも協議し、細胞診と HPV 検査を同時に行う HPV 併用子宮頸がん検診の導入を目指しています。このことにより、前がん病変(子宮頸部異形成と言いますが)をより早く発見することが可能となり、より精度の高い検診となることが期待できます。若い女性に多いがんですので、早期発見により子宮を温存することが可能となり、妊娠・出産が可能となります。少子化対策の一助となるものと思います。一日も早い HPV 併用子宮頸がん検診の魚津市での実現を願っています。

